

## 令和7年度 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研究報告

(1) 郡市名 高島市

(2) 研究テーマ 「児童の主体的な学びにつながる視聴覚機器の活用」

(3) 研究組織 高島市小中学校教育研究会 視聴覚部会(小学校)

部会役職	所属	職名	氏名
部会長	高島小学校	教頭	城戸 久貴
副部会長	新旭南小学校	教諭	井上 颯
運営委員	今津北小学校	教諭	清田 将義
研究推進委員	高島小学校	教諭	濱口 未来
部員	マキノ西小学校	教諭	伊吹 航
	安曇小学校	教諭	関 胡桃
	本庄小学校	教諭	北川 真吾
	高島小学校	教諭	菅谷 将大
	高島小学校	教諭	桑原 三彩
	新旭南小学校	教諭	磯野 千紜
	新旭南小学校	教諭	後藤 凌
	新旭南小学校	教諭	上田 武史

(4) 年間研究(事業)報告

令和7年5月 7日 研究組織の確認、テーマ、計画の検討及び決定

令和7年9月18日 高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研修会

「教科書課題を活用したプログラミング指導方法や

授業・校務における効果的な AI 活用について」

講師：滋賀県総合教育センター 関川 法之 指導主事

(5) 取り組み

5月7日に開催した第1回研究部会では、今年度の研究組織および年間計画の確認を行うとともに、研究テーマについて検討した。

9月18日には、第2回研究部会として「高島市小学校教育研究会 視聴覚部会研

修会」を開催した。滋賀県総合教育センターより関川指導主事をお招きし、「教科書課題を活用したプログラミング指導方法や授業・校務における効果的な AI 活用について」を演題に、実践事例を交えた講演および演習を行っていただいた。



はじめに、プログラミングアプリ「Viscuit」や「Google ロゴでプログラミング」について紹介していただき、実際にアプリを操作しながらプログラムを作成した。参加者が作成したプログラムは多種多様であり、児童一人ひとりの発想やアイデアを自由に表現できるプログラミングツールであることを実感した。また、理科や算数といった教科学習にとどまらず、さまざまな場面で活用できる点から、今後も積極的に授業へ取り入れていきたいと感じた。

次に、校務や授業に活用できる生成 AI について、Microsoft の AI アシスタントツール「Copilot」を用いて説明していただいた。生成 AI については文部科学省からガイドラインも示されており、教員がその特性や活用方法を正しく理解した上で、指導に生かしていくことが求められている。実際に操作を体験しながら、具体的な活用方法について学んだ。

校務面では、文章の校正や言語化、要約、アンケート作成などに活用できること、授業面では導入場面のアイデア提示や小テスト、ルーブリックの作成などに有効であることが紹介された。生成 AI は多様な活用可能性をもつとともに、今後も進化し続けるツールである。今後も研修等を通して学びを深め、積極的かつ適切に活用していきたい。

## (6) 成果と課題

研修会では、実際にタブレット端末を操作しながら複数のアプリを演習することで、授業や校務のどのような場面で活用できるのかを具体的にイメージすることができ、大変学びの多い研修となった。

特に生成 AI については、これまで校務や授業で活用した経験のない教員が多かったが、実際に操作・体験することで、その利便性や手軽さを実感し、具体的な活用方法をイメージすることができた。

今後は、視聴覚部会で得た学びを部員だけにとどめるのではなく、いかに各校の教員へ広げていくかが課題である。多くの教員が ICT 機器を効果的に活用し、子どもたちの学びをより広げ、深めていけるよう、視聴覚部員が中心となって研修会の開催や実践報告を行っていきたい。



令和7年度 小学校視聴覚部会 研究報告書

(1) 市 名 長浜市

(2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

部会長 長浜市立長浜南小学校 教頭 水谷 直美

理 事 長浜市立速水小学校 教諭 中島 大理

研究員 長浜市立余呉小中学校 教諭 新保 捺

(4) 年間の研究(事業)報告

4月16日(木) (市) 市内視聴覚教育主任会

5月 9日(金) (市) 第1回 ICT 活用推進連絡協議会

7月22日(月) (県)県教育研究会視聴覚部会 運営委員・研究推進委員合同研修会

8月 1日(金) (市) 第1回 ICT 活用推進連絡協議会

通年 各校での ICT を使った授業の実践

(5) 取り組み(実践事例)

余呉小中学校の研究主題に「言語活動の充実」がある。そのため、様々な場面において「自分の思いや考えを伝え合う」ことを目指し大切にしている。ノートに自分の考えを書くことや、タブレットでみんなの考えを共有するなどにより、アナログとデジタルの良いところを用いながら長浜スタイルの授業を目指している。ロイロノートの共有ノートや、提出箱の共有を活用して、友だちの意見を自由に見ることで、友だちの意見を参考にし、自分の意見を広げるなど、日々実践を行っている。

6年生の国語科「デジタル機器と私たち」の学習では、児童と一緒に学習計画を立てた。それぞれがタブレットを使って、進めていけるようにした。学習のゴールは小学生を対象に、グループでデジタル機器の使い方についての提案文をつくることにした。本単元では、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」を目標とし、提案する文章を書く活動が設定されている。そこで、考えたことや伝えたいことをもとに提案する文章を書くという言語活動を位置づけ、説得力のある構成を考え、提案する文章をタブレットで書く学習活動を進めた。今回は共有ノートを用いて、グループで学習を進めた。

単元をスタートするにあたり、ロイロノートのシンキングツールのウェビングを使ってデジタル機器にはどのようなものがあるのかを出し合った。タブレット、スマートフォ

ン、パソコン、テレビ、カメラ、ゲーム等様々なデジタル機器が出てきた。GIGA スクール構想で一人一台端末が整備され、家庭だけでなく、学校生活においてもインターネットにアクセスしたり、写真や動画を撮影したりする機会が増え、デジタル機器を扱うことが身近になってきている。また、クラスの中にはSNSを活用している児童もいる。そのような理由から、デジタル機器を正しく、安全に使うために気を付けた方がよいことについて、意見を出し合った。そこでは、インターネット上での誹謗中傷、SNSを使ったいじめ、詐欺、デジタル機器の長時間使用による健康被害、依存等多くの意見が出てきた。そこで、グループでテーマを決め、情報を集めて、提案内容を検討した。情報を集める際には、本やインターネットを活用した。提案内容を支える事実を検索し、提案する文章を考えた。

## (6) 成果と今後の課題

成果は、タブレットを活用することで、瞬時に提案に関する事実を調べられた。また説得力のあるデータを見つけられた。そして、文章を構成したり、書いたりするときに簡単にカードを動かしたり、書き直せたりすることで、話し合いや文章が深まった。構成を考える際、初め、中、終わりでカードの色を変えておくこと(図1)で、提案文を書くときに、大まかな内容が分かりやすくなった。さらに、書くことが苦手な児童も、友だちと話し合っって書いてみようとしていたり、簡単に書き直しができたりするので、文章を書くことに対しての苦手意識が軽減したように感じる。ロイロノートの共有ノートを使ったので、同じ班の友だちが困っているところにすぐに気付けたため、友だち同士の教え合いが活発に行われた。他のグループの文章を参考にしているグループも見られた。

課題としては、情報を集める際に情報がありすぎて、どの資料を取り扱うか選択するのに時間がかかったグループがあった。情報を選択する力を養っていく必要がある。また、最後に提案文を発表する際に、原稿通りになってしまったので、相手を意識した発表ができるよう指導していきたい。情報モラルの育成、文章の書き方など教科横断的にその都度適切な指導をしていくことが必要になると考える。

詐欺に遭った時は落ち着いて  
6年

### 1. 提案のきっかけ

<p><b>身近な事例</b></p> <p>身近な人からスマートフォンから、知らない番号から、知らない人から電話がかかってきて、話しかけられた。</p>	<p><b>身近な事例</b></p> <p>YouTubeやニコニコ動画で怪談や怖い話を見たり聞いたりする。</p>	<p><b>身近な事例</b></p> <p>一見、怪しい電話、オレオレ詐欺、盗撮、盗撮カメラなど、身近な話。</p>
---	---	---

### 2. 提案

<p><b>目的</b></p> <p>詐欺に遭った時の対処方法を知りたい。また、身近な人から、知らない番号から、知らない人から電話がかかってきて、話しかけられた。</p>	<p><b>目的</b></p> <p>怪談や怖い話、盗撮カメラなど、身近な話を知りたい。</p>
--	---

### 3 まとめ

<p><b>まとめ</b></p> <p>身近な人から、知らない番号から、知らない人から電話がかかってきて、話しかけられた。</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p>怪談や怖い話、盗撮カメラなど、身近な話を知りたい。</p>
--	--

図1 提案のきっかけ

提案文 完成

## 令和7年度 小学校視聴覚教育部会 研究報告

(1) 郡市名 東近江市

(2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支部長	五個荘小学校	校長	安江 利光
運営委員	八日市南小学校	教諭	寺村 尚子
研究推進委員	五個荘小学校	教諭	野村 真悟

(4) 年間の研究(事業)報告

6月10日 県視聴覚部会 支部長会(事務局会議)  
7月22日 県小中教育研究会視聴覚部会 小中運営委員・研究推進委員合同研修会  
11月12日 第74回近畿放送教育研究会  
第75回近畿学校視聴覚教育研究大会 ～奈良大会～  
2月17日 小中支部長・運営委員・研究推進委員合同研修会  
通年 各校でのICTを使った授業の実践

(5) 取り組み(実践事例)

今年度、第75回近畿学校視聴覚教育研究大会が奈良県で行われた。そこで、五個荘小学校の森本愛理教諭が第4分科会(道徳・心の教育・情報モラル)で発表をしてくださった。以下はその大会で発表された内容である。

### 小学校部会①

研究主題(どの児童も自分事として捉え、主体的に学び合い、生きる力を育む)

～ICTの効果的な活用を通して、考え、議論し、振り返る、特別の教科 道徳の授業づくり～

提案者 森本 愛理 (東近江市立五個荘学校)

1. はじめに

近年、デジタル化を含む社会の変化が加速している。急速に変化する社会状況の中で、子どもたちは、自ら課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、解決につなげていく力が重要となってくる。そこで、誰一人取り残すことなく、すべての子どもの可能性を引き出すために、道徳科で自己や学びにつながるICTの活用の在り方について研究した。

道徳科では、「よりよく生きるための基礎となる道徳を養う」ことが目標とされている。ICT による思考の可視化で、児童・生徒の「自分の考えを共有」したり、「多様な考えに触れ」たり、「振り返りを深め」たりなどの作用により、「自己関与」と「他者理解」が深まると考えた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる。

「ICT を活用して道徳のねらいを深める」、「ICT 活用を通じて道徳的態度・判断を育む」を目指して、小学校2年生を対象に道徳科で、「ICT の効果的な活用を通して、あたたかい心、親切な心について考えよう」の授業を実践した。

## 2. 実践研究の内容

特別の教科 道徳 「くりのみ」

(「小学校道徳 生きる力2」日本文教出版)

主題名 「あたたかい心」【B(6)親切、思いやり】

- (1) 導入 北風の音 (ICT) を流して、物語の世界に入れるようにする。
- (2) 展開 『どんぐりを隠したきつねの気持ち』を考える。
- (3) 展開 『うさぎに尋ねられてきつねが困った顔をする場面で、きつねがどんなことを考えていたのか』を考える。そこから、くりのみを見つけたことを言うか、隠したままにしておくかの葛藤を 心情メーター (ICT) で表す。心情メーターは、Padlet (ICT) で共有する。
- (4) 展開 『涙を流すきつねはどんなことを考えていたか』を考え、涙カードに記入し、Padlet (ICT) で共有する。
- (5) 終末 『親切にして、よかったこと』を共有し、教師の説話を聞く。

## 3. 結果と考察

導入で ICT を活用し、北風の音を流すことで、物語の世界に入りやすく、情景を想像して道徳のねらいを深めることができた。また、季節に気づいたり、想像することが苦手な児童の支援になったりもした。

展開では、デジタル教科書の心情メーターを活用し、葛藤の場面で活用した。葛藤場面で活用することにより、深く考えることができた。また、心情メーターは、Padlet (ICT) で共有した。Padlet (ICT) で共有することで、自分のタイミングでたくさんの意見を見ることができたり、多様な考え方に触れることができたりした。早く考えられた児童も、他の児童の意見に触れ、道徳的価値をより深められることにつながったと考えられる。

涙カードを用いて、Padlet (ICT) で共有することも行なった。様々な意見から、自分の経験や今までの考えを立ち返ることができた。

ICT 活用の経験が少なかったため、活用には戸惑うことがあったが、即時に友達の考えを見ることができたり、振り返りを残しておくことができたりして、効果的だった。ICT を効果的に活用することで、協働的に学び合い、深い学びにつながり、生きる力の育成につながったと考える。

#### 4. おわりに

本授業を通して、ICTの効果的な活用が、自己や他者を見つめる機会になることが分かった。また、協働的な学びになり、深い学びになると気づいた。児童自身も、多様な意見に触れ、学びを実感できていた。

今後の教育現場において、児童が適切に活用し、将来正しく、効果的に活用できるように、色々な場面で活用していくことが大切である。今回の授業実践をうまく活用し、児童の情報活用能力を高めていきたい。



電子黒板で「心情メーター」を使いながら、自分の考えを発表している様子



タブレットで「心情メーター」を使いながら、自分の考えを表現している様子



児童一人ひとりが考えた「心情メーター」を Padlet に共有し、集まった意見を電子黒板に写してみんなで確認している様子



児童一人ひとりが考えた「心情メーター」を Padlet に共有し、友だちの意見を自分のタブレットで確認している様子

## 令和7年度 彦根市教育研究会 視聴覚部会 研究報告書

(1) 都市名 彦根市

(2) 研究テーマ

教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織

支部長 世話係 (小) 彦根市立稲枝北小学校 校長 上松 由美子

世話係 (中) 彦根市立東中学校 校長 涌井 努

世話係 (小) 彦根市立城南小学校 教頭 野杏溪 守

県・市運営委員 彦根市立河瀬小学校 教諭 西田 伊吹

彦根市立鳥居本中学校 教諭 池田 晴彦

研究推進委員 彦根市立稲枝東小学校 教諭 川嶋 清一郎

彦根市立東中学校 教諭 山林 聡

各校視聴覚主任

学校名	氏名	学校名	氏名
城東小学校	姉川 雅人	金城小学校	藤澤 巧真
城西小学校	荒井 崇行	鳥居本小学校	原田 恵実
城南小学校	西田 龍馬	河瀬小学校	西田 伊吹
平田小学校	古橋 健次	亀山小学校	大倉 健
城北小学校	澤 仁一郎	高宮小学校	西野 藍
佐和山小学校	角川 智哉	稲枝東小学校	川嶋 清一郎
旭森小学校	廣部 正己	稲枝西小学校	北村 克人
城陽小学校	樋口 朋哉	稲枝北小学校	伊藤 龍
若葉小学校	新谷 恵史		
東中学校	山林 聡	彦根中学校	塚田 誠
西中学校	松井 優希	鳥居本中学校	池田 晴彦
中央中学校	中島 伸一	稲枝中学校	北川 智明
南中学校	清水 晴		

(4) 年間の研究 (事業) 報告

本年度は、市内視聴覚主任会は実施せず。

7月22日 (火) 県視聴覚部会 夏季研修会

通年 各校でのICTを使った授業の実践

(5) 取り組み (実践事例)

教材名：せんりつで よびかけあおう (1年生音楽)

1. 単元計画

	時間	学習内容
第一次	1時間目	・よびかけとこたえの表現を楽しみながら、曲想との関わりに気付く。 ・互いの声を聴き合って、「まねっこあそび」をして楽しむ。
	2時間目	・歌い方や声の出し方を工夫して、呼びかけ合いを楽しむ。
第二次	3時間目	・「どれみふあそ」の中から3つの音を選んで旋律を作り、作った旋律を使って、まねっこしたりつなげたりして、その面白さに気付く。
	4時間目	・呼びかけ合うような旋律になるように、作った旋律のつなげ方について思いをもつてつくり、聴き合う。
第三次	5時間目	・曲全体の曲想を感じ取って聴く。 ・呼びかけ合う旋律を口ずさみながら、学期の音色を感じ取って聴き、曲想との関わりに気付く。
	6時間目	呼びかけ合う旋律のよさや面白さ、曲の美しさを楽しんで聴く。

2. 本時の目標

よびかけあうように旋律をつなげてあそびましょう

3. 本時の展開 (3・4時間目/6時間)

	学習活動	教師の手立て (・) 評価規準 (□)
導入	1. やまびこごっこを歌う。	・互いの声を聞きながら、呼びかけ合って歌うようにする。
展開	2. どれみふあそから選んで旋律を作る。	・オクリンクプラスを活用することで、繰り返し作った旋律を試すことができるようにする。 ・同じ音を選んでも良いこととする。その場合、タブレットの複製機能を活用することで、円滑に活動できるようにする。
	3. 作った旋律を、鍵盤ハーモニカで吹く。	・ペアの友達と聴き合う時間を設けることで、友達の旋律の良さにも気付けるようにする。
	4. 一番気に入った旋律を決める。	・気に入った旋律をオクリンクプラスで提出し、画面共有することで、友達の作った旋律を手元で確認できるようにする。

	<p>5. 友達の作った旋律を鍵盤ハーモニカで吹く。</p> <p>6. 呼びかけ合うような旋律を作る。</p>	<p>・提出ボックスを誰でも閲覧できるようにすることで、どのような旋律を作ろうか悩んでいる児童への支援へとつなげる。また、参考にするすることで、よりよい旋律を作ることができるようにする。</p> <p>□旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。</p>
まとめ	7. 振り返りをする。	・旋律を作るときに、気を付けたポイントを発表することで、旋律で呼びかけ合う楽しさや面白さを感じられるようにする。

#### (6) 成果と今後の課題

##### 【成果】

・タブレット端末を活用することで、自分が作った旋律をよりよいものになるよう修正する児童が多かった。

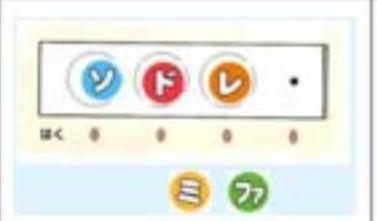
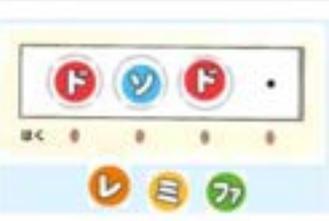
・提出ボックスを公開することで、旋律作りで悩んでいる児童への支援につながった。また、自分の旋律以外を見ることで、様々な旋律に親しむことができた。

・友達の作った旋律を全員で吹くとき、画面共有することで手元に旋律があり、視線移動が少なくなるため、音階を確認しながら吹くことができていた。

##### 【課題】

・よびかけ（赤）とこたえ（青）の旋律を吹くとき、画面上に両方の旋律を映そうとすると、それぞれの旋律が小さくなり見づらくなってしまった。

#### (7) 参考資料

		
【よびかけ合いの旋律資料】		【同じ音を選ぶ旋律】
		
【異なる音を選んだ旋律】	【よびかけあいの旋律】	【よびかけあいの旋律】

## 令和7年度 米原市小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 郡市名 米原市

(2) 研究テーマ

教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～思考を整理するためのICT活用・問いを立てるためのICT活用～

(3) 研究組織

支部長 米原市立米原小学校 教頭 田中 貴之  
研究委員 米原市立息長小学校 教諭 馬淵 大輔

(4) 年間事業

5月：第一回部会（書面開催）研究主題、活動内容確認

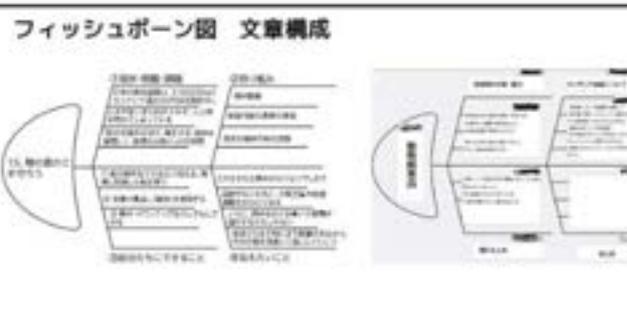
7月～11月＊ICT研修への参加

＊GIGA スクール構想に関わる端末体験会（クローズドブックの体験会）

＊ICT活用講座（米原市ICT調査部会）

(5) 取り組み（米原市ICTに関する調査研究部会実践報告より）

<p>テーマ</p> <hr/> <p>①思考を整理するためのICT活用</p> <p>②「問い」をたてるためのICT活用</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>①情報や思考を整理するためのICT</p> <p>＊主に、国語科や総合的な学習の時間で取り組んだ実践</p> <p>○情報を読み取ること、集めること △集めた（読み取った）情報の比較、整理、 △集めた（読み取った）ことをまとめる、文章にする</p> <p>課題としている2点に関して、 ・友だちと学び合いながら、上記の課題を改善する手立てとしたICT活用（個人差を埋める手立て）</p> <p style="text-align: right;">2</p>
---	--

<p>①思考を整理するためのICT活用</p>  <p style="text-align: right;">3</p>	<p>①思考を整理するためのICT活用</p> <p>フィッシュボーン図 文章構成</p>  <p style="text-align: right;">4</p>
---	--

<p><b>児童の様子・変容</b></p> <p>①学力的に低位な児童、学習に取り組みにくい児童が、分かるところから取り組み、友だちとの対話や交流を踏まえて課題に取り組めた。</p> <p>②共通のシンキングツールに、グループで取り組むことで自然と対話が生まれた。</p> <p>③繰り返して使用することで、ツールを効果的に使うことができるようになった。</p> <p style="text-align: right;">5</p>	<p><b>②より良い「問い」を立てるためのICT活用</b></p> <p>★社会科の授業において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通した「問い」や「学習問題」が教師主導になっている</li> <li>→子どもの興味、関心によりコミットした、より良い学習問題（問い）を建てるためにICTが活用できないか。</li> </ul> <p>★校内OJTと絡めて、教科担任制をしている社会科の授業から、子どもの疑問、関心によりコミットした学習問題作りをめざした。</p> <p style="text-align: right;">6</p>
<p><b>②より良い「問い」を立てるためのICT活用</b></p> <p>・始めは、XチャートやYチャートを使って、疑問や問いを都一角出すことから始めた。 見る視点もこちらからある程度示す。</p>  <p style="text-align: right;">7</p>	<p><b>②より良い「問い」を立てるためのICT活用</b></p> <p>・たくさんの問いや疑問を出し、それを自分たちで整理したり分類したりできるようになってきた。 ・疑問や問いから、「より深めたい、知りたい」という視点で学習問題を考えることができるようになってきた。</p>  <p style="text-align: right;">8</p>
<p><b>児童の様子</b></p> <p>①問いをたくさん出せるようになった。学びの視点や、資料を見る視点を次に活かせるようになった</p> <p>②考えた学習問題や問いから、より考えごたえがあるもの、学習内容に沿うものを吟味できるようになった。</p> <p style="text-align: right;">9</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p>★ICT活用の実践 成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学び合いを支えるツールとしての活用</li> <li>○学力の保証や、学習参加の機会</li> </ul> <p>△書くこととのせめぎ合い △マンネリ化 △子どもも教員も個人差あり</p> <p style="text-align: right;">10</p>

# 令和7年度 野洲市小中学校教育研究会 視聴覚教育部会研究報告

1 都市名 野洲市

2 研究テーマ

多様なメディアと「ふれあい」「あそびあい」「創りあえる」子どもを育てよう  
～児童・生徒のあゆみに寄り添って、多様なメディアを通して対話しあえる授業の実現をめざそう～

3 研究活動の組織・体制

部 会 長		幹 事		研究推進委員	
小濱 玲子 (篠原小)		國弘 俊一 (篠原小)		國弘 俊一 (篠原小)	
山口 孝志 (野洲北中)		赤穂 優花 (野洲北中)		赤穂 優花 (野洲北中)	
各 校 代 表 者	学 校 名	氏 名 (学年)	学 校 名	氏 名 (学年)	
	中主小学校	川尻歩野佳 (4)	中主中学校	中村 優 (2)	
	篠原小学校	國弘 俊一 (教)	野洲中学校	山口 諒 (3)	
	祇王小学校	西川 大貴 (2)	野洲北中学校	赤穂 優花 (2)	
	三上小学校	岩見 一樹 (2)			
	野洲小学校	三上 芳典 (教)			
	北野小学校	鎔廣 武伯 (教)			

4 年間研究活動報告

学 期	活 動 の 概 要
1 学期	・研究活動計画の組織・体制・主題の決定 ・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
2 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
3 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) ・研究のまとめ

## 5 野洲市立篠原小学校の取組と実践

野洲市立篠原小学校では、1人1台端末の導入以降、少しずつ授業の中でもタブレット端末を活用した授業実践を進めてきた。下学年の授業においては、カメラ機能を活用した観察や記録、上学年の授業ではアプリケーションの活用を推進している。その代表的な例が「ロイロノート」と「マイクロソフトチームス」である。

さらに総合的な学習の時間を中心に、中学年からはインターネットを活用した調べ学習に積極的に取り組んでいる。自習や休み時間を中心にタイピングソフトやプログラミング、タブレットドリルにも取り組んでいる。

また、本市ではICT推進委員会による市全体のICT機器での活用を推進しており、各校におけるICT実践事例を共有したり、これからの活用を議論し検討したりしている。本校においても、ICT推進委員会で検討したことや各々の教師がこれまでの実践等で得られた知識を活用し、授業実践を中心に日々様々な教育活動でICTの活用を推進している。本報告では、6年生の算数科の授業実践と、2学期に行った音楽会における実践事例の一部を紹介する。

### (1)第6学年 算数科での実践

ロイロノートにおける共有ノートを活用すれば、従来行っていた、子ども同士の意見交流を活性化することができる。その一つの要因として、子ども同士のノートをタブレットの画面を通して瞬時に共有できるというICTの特徴があるからである。また、算数科で、表などを用いて分類整理したり読み取ったりする学習において、多様な考え方を視覚的に共有することで、自らの考えを再構築し、より深い学びの実現にもつながると考えられる。

#### ②実践授業の指導案(抜粋)

#### 1 単元名 「場合の数」(6年)

#### 2 本単元の目標

並べ方や組み合わせ方について、起こり得る場合を図や表などを用いて順序よく整理して調べることができる。

#### 3 単元計画 (全9時間)

時	単元の目標
1・2時	いくつかのものを順番に並べるとき、並べ方は全部で何通りあるか求める方法を理解する。
3時	全体から一部を取り出して並べるときの場合の数の求め方を理解する。
4時	同じことを繰り返し行う場合に全部で何通りあるか考え、場合の数の求め方の理解を深める。

5時	いくつかのものの中から順番に関係なく2つを選んだときの組み合わせ方の総数を求めることができる。
6時	4種類の中から3種類を選ぶ組み合わせについて、図や表などを用いて考えることができる。
7時	学習したことを生かして問題を作ることができる。
8時 (本時)	友だちが作った問題について状況に合った解き方を判断し、図や表を用いて解き合うことができる。
9時	基本的な学習内容を理解し、図や表を用いて求めることができる。

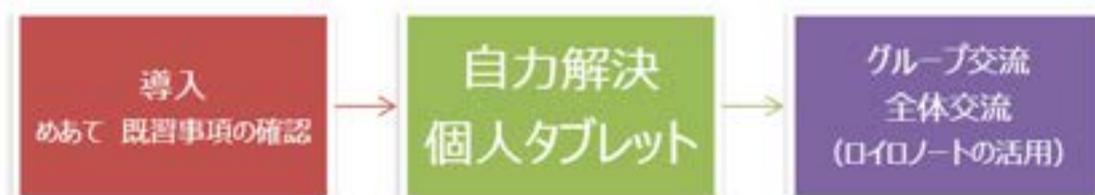
#### 4 本時の目標

友だちが作った問題について状況に合った解き方を判断し、図や表を用いて解き合うことができる。

#### 5 本時の展開

学習活動と子どもの姿	指導者の支援・指導
<p>1、 これまでに学習してきた内容を確認する。</p> <p>2、 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>状況にあった解き方を考えよう。</p> </div> <p>3、 例題を提示し、解き方について話し合う。 ・例題がこれまでに学習してきたどのタイプの問題なのか判断する。</p> <p>4、 学級の友だちが作った問題に挑戦する。</p>	<p>○これまでに学級で蓄積してきた「場合の数の考え方」を提示し、本時の学習に生かすことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>場合の数の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○並べ方</li> <li>・A 順番 ・B 取り出し+順番</li> <li>・C くり返し</li> <li>○組み合わせ</li> </ul> </div> <p>○問題の状況によって解き方が変わることを確認し、自力解決に向けて意識できるようにする。</p> <p>○事前に児童が作った問題の中から指導者が選んだ問題に挑戦し、様々なパターンの問題に慣れていくことができるようにする。</p> <p>○「場合の数の考え方」を参考に、樹形図や表や図など様々な考え方が出るように促し交流の場面で多様な解き方に触れることができるようにする。</p> <p>○<u>ロイロノートを使用し、一人ひとりの考え方を全体で共有する。</u></p> <p><u>大型モニターと1人1台端末の活用</u></p> <p>○自力解決後、班活動にすることで教え合いができるようにする。</p>

<p>5、班で解き方、考え方を交流し、解き方を確認する。</p> <p>6、全体で様々な解き方が出てきた問題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>まとめ</b> 状況に合わせて、自分にとって分かりやすい方法で解決することが大切</p> </div> <p>7、本時の振り返りを行う。</p>	<p>○答えを確認しながら、「どうしてその考え方になったのか」「違う図や表での考え方のよさ」の視点で話し合うことを伝える。</p> <p>○様々な解き方が出てきた問題を中心に交流し、状況に応じた解き方をしていくことの大切さに着目できるようにする。</p> <p>○組み合わせについては、様々な図や表で考えられることを確認し、それぞれの考え方によさがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>○今日の学習で気付いたことや自分の理解度を振り返るように声をかけることで、考えを整理することができるようにする。</p>
---	--



情報機器を授業に取り入れた交流

## (2)個別懇談会における音楽会の録画放映

2学期に実施した『篠っ子わくわくコンサート』(全校音楽会)がインフルエンザ拡大防止のため延期になり、延期した日も全校での実施が難しく、最終的に学年別発表会となった。学習参観であったが、度重なる変更で参観できない保護者がいたため、個別懇談会の期間中に大型モニターを使って各学年の発表の様子を録画して、繰り返し放映した。当日参観できなかった保護者にも児童の頑張る姿を見て頂くことができた。また、給食の時間

に放送委員会が、特別放送という形で放送することで、異学年の発表を子どもたちも互いに鑑賞することができた。

## 6 主な成果と課題

### 【成果】

- ・6年生算数科の実践では、ワークシートを印刷して配付する必要がなく、大型モニターで説明し、ロイロノートでワークシートのデータを見童の端末に送信することで見童が課題に取り組む時間を確保できた。また、共有ノートを活用することで、他の見童の考え方を自席でリアルタイムに見ることができ、自立解決時の手助けとなったり、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。班交流や全体交流の効率化だけでなく活性化にもつながった。
- ・6年生の卒業文集を書く際、タブレットを活用することで、見童の意欲向上、作文や漢字が苦手な見童の抵抗感の軽減になった。添削や修正が簡単で、時間効率が格段に上がった。

### 【課題】

- ・総合的な学習の時間を中心にタブレットを使用した調べ学習に取り組むことが多いため、低学年と3～6年生で活用頻度に大きな差が生まれている。さらに、ロイロノートも上学年では活用できているが、下学年では十分に活用できていない。発達段階に応じて、系統的にICT活用能力を養う必要があり、低学年から積極的に活用する場面を設定し、丁寧に指導していかなければならない。また、書く力（作文や板書をノートに書く等）を見童につけていくためには、見童が自分で書く活動を十分に設定する必要があり、タブレットに依存しすぎないように気をつけなければならない。
- ・スムーズに活用できる見童とそうでない見童が両極端で存在している。見童だけでなく指導を行う教師にもICTの活用に抵抗がある者が少なくない。ICT推進教師や市から派遣されるICT支援員を中心に、研修を繰り返し、教師のICT活用能力を高めていく必要がある。
- ・一部の特別教室では、インターネットに接続できないため、オンライン環境の整備も課題である。

## 令和7年度 小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 都市名 蒲生郡

(2) 研究テーマ

<b>研究主題</b> 自ら考え、共に学び合おうとする子どもを育てる ～ICTの効果的な活用を通して共に学び合い・伝え合う授業づくり～
---

(3) 研究組織

支部長	日野町立必佐小学校	校長 岩脇 俊博
運営委員	日野町立必佐小学校	教諭 友田 昌吾
研究推進委員	日野町立日野小学校	教諭 井上 知己

(4) 年間研究報告

活動概要	実施期日	活動内容・会場
○郡教科主任会	4月11日(金)	会場：日野中学校 参加8名 ・役員選出・研修計画について
○県視聴覚部会・ 支部長会	6月10日(火)	会場：守山南中学校 ・令和6年度事業報告、会計決算報告 ・令和7年度事業計画、予算案 ・令和9年度近畿大会の輪番表について
○県視聴覚部会 夏季合同研修会	7月22日(火)	会場：コラボしが21 参加郡より1名 ・支部長、運営委員、研究推進委員対象
○県視聴覚部会 合同研修会	2月17日(火)	会場：能登川東小学校 ・支部長、運営委員、研究推進委員対象
○研究紀要の報告		蒲生郡：日野小学校より

(5) 日野小学校の取り組み事例

### ①タブレットのルールの見直し

私は昨年度、日野小学校に異動してきました。日野小学校のタブレットの使い方はそうとうひどくて、授業中に関係のないサイトを閲覧することはかわいいもので、ゲームをしたり、更衣室にこもってYoutubeをみたりとタブレットの使用についての様々な課題がありました。

そこでタブレットの使用についてある程度の拘束が必要であると感じ、日野小学校独自のタブレット使用に関する誓約書を作成したところ、校長会を経て、教育長発信で日野町全体のルールとして各家庭へ配付されました。

#### 【この誓約書のポイント】

- ・あらかじめ予想される違反行為を多数明記しておくことで、注意深く使用させること
  - ・子どもの名前だけでなく保護者の名前も記入させる、また、裏面のチェックリストを保護者と一緒に行わせることで、保護者にも責任が生じるようにしたこと
  - ・もしルールを破った場合は保護者と一緒に放課後取りに行くようにしたこと
- の3点です。この誓約書配付後はタブレット使用への指導が大幅に減りました。まだまだ未熟な子どもたちにはある程度強制力をもった約束や親の影響が必要であると感じました。



(1) 郡市名 近江八幡市

(2) 研究主題 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ

(3) 研究組織 支部長 堀田 直美 (近江八幡市立金田小学校)  
理事 石塚 陽介 (近江八幡市立金田小学校)  
研究委員 稲留 翔太 (近江八幡市立安土小学校)

#### (4) 年間の事業報告

5月2日 教科等主任会  
4月～7月 授業実践期間  
7月22日 県小中教育研究会視聴覚部会 小中運営委員会・研究推進委員合同研修会  
8月4日 市小中視聴覚教育主任会 (実践交流)  
12月 研究報告書作成

#### (5) 実践事例

1学期に、各小中学校で、「NHK for School」を活用した授業について実践し、夏季休業期間中に実践交流会を開催した。以下は、1つの小学校の実践事例である。

#### NHK for School を活用した国語科学習

1. 単元名 カナダの友だちに向けて「わたし」の説明文を書こう
2. 教材名 「わたし」の説明文を書こう (東京書籍)
3. 単元の目標
  - ・段落の役割について理解している。
  - ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。
  - ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。
4. 本時の学習
  - (1) ねらい  
自分の伝えたいことについて書き出すことができる。
  - (2) 活用NHK for School  
「お伝と伝じろう」の「はじめは自己紹介」
  - (3) 展開 (2時間目/全9時間)

学習内容・活動	○教師の指導 ●評価
① 学習の流れを振り返り、本時の内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">めあて：自分の伝えたいことを書き出そう。</div>	○単元シートを見せながら、確認する。
② 自己紹介の目的を確認する。	○カナダから来る友だちに、自分のどんなことを伝えるといいかイメージさせる。

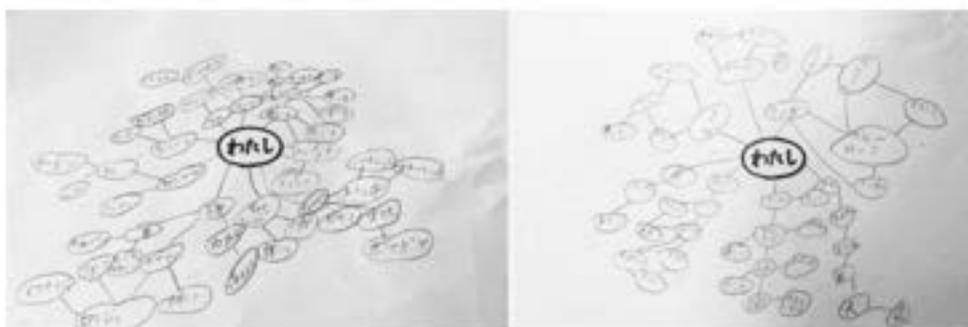
<p>③ NHK for School を見て、自己紹介のポイントを知る。</p> <p>④ ウェブマップや10の質問に答えることで自分の伝えたいことを書き出す。</p> <p>⑤ どのようにすると伝えたいことが書き出せた振り返る。</p>	<p>○ウェブマップにすると、自分の伝えたいことが書き出しやすいことを伝える。</p> <p>●自分の伝えたいことを書き出すことができたか。(ワークシート・ロイロノート)</p> <p>○ウェブマップのよさに気付けるように言葉かけを行う。</p>
--	---

### (6) 成果と課題

NHK for School の「はじまりの自己紹介」では、自分の伝えたいことを思いのまま書き出すと自然とウェブマップが完成し、自己紹介のときに伝えたい情報が見やすくまとめられることが紹介されていた。本時では最初に動画を見せることで、児童は学習の見通しを持つことができ、主体的に活動に取り組むことができていた。また、活動のはじめに、好きなこと・がんばっていること・苦手なことから書き始めるとよいと伝えると、多くの児童が様々なテーマで自分の伝えたいことを書き出すことができた。さらに、「わたし」の説明文を書く時にもウェブマップを見直すことで、自分の伝えたいことがテーマごとに集められているので、伝える内容を構成する際にも役立った。

しかし、支援の必要な児童は、中心の「わたし」から、ねこがすき、ねことあそぶのがすきと自分の好きなことを周りに二つ書いただけで、自分でウェブマップを広げることはできなかった。担任からの質問に答えながら自分のことを書き出すことはできたので、その内容を「わたし」の説明文を書く時の材料とした。もう少し、他教科でもウェブマップを用いて情報を整理する経験が必要であると感じる時間となった。

### <児童成果物>



### <教科書内容>



### <NHK for School 例示>



## 令和7年度 小・中学校教育研究会視聴覚部会実践事例

(1) 郡市名 栗東市

(2) 研究テーマ

「Chromebookをはじめとした多様なメディア環境（マルチメディア）を通して、生きる力と豊かな感性をもつ子どもの育成をめざしたICT教育のあり方を追求しよう」

(3) 研究組織

	氏 名	所属校
部会長 (代表)	黒川 俊文	治田小
部会長	大西 知行	栗東 西中
運営委員	伊藤 陽平	大宝小
推進委員 (支部役員)	田村 圭賢 梅原 悠貴	大宝東小
会計担当		

(4) 年間の研究(事業)報告

1月、大宝東小学校第1学年にて授業実践。

(5) 取り組み

第1学年 国語科での実践

「デジタル比較表を活用した説明文の読解-『どうぶつの赤ちゃん』における情報の整理を通して-」

1. 活用実践の概要

本単元では、ライオンとシマウマの赤ちゃんの違いについて、「生まれたばかりの様子」や「大きくなっていく様子」を比較しながら読み取る学習を行った。

低学年の児童にとって、文章のみで複数の対象を比較することは認知的な負荷が高い。そこで、ICT 端末を活用し、以下の活動を取り入れた。

- ・ デジタル比較表の活用：教科書の記述に対応する写真やキーワードを、タブレット上の比較表に整理。ライオンとしまうまを比較したのち、「ぞう」の文章を読み、ぞうはどちらに似ているか、どちらとも似ていないのかを観点別に比べ、ぞうのマークを動かしながら表へ整理した。
- ・ 双方向の共有：自分がまとめた比較表をクラス全体に配信し、友達の気付きと自分の気付きを即座に比較する活動を実施。



ごはん	いどうのしかた	おかあさん にしているか	目や耳のようす	生まれたときの 大きさ		
<p>やかて おかあ さんが とった えもの を たべ る。</p>	<p>生まれ て 二か 月 くら い は、 おち ち だ け</p> 	<p>おかあ さん が 口 に く わ え て は こ ん て く れ る</p>	<p>あま り に て い な い</p>	<p>と じ て い る</p>	<p>子 ね こ ぐ ら い の 大 き さ</p>	<p>ライ オ ン</p> 
<p>その あ と は お ち ち も の む が じ ぶ ん で も た べ る</p> 	<p>七 日 ぐ ら い は お ち ち だ け</p>	<p>生 ま れ て 三 十 分 も た た な い う ち に、 立 ち 上 が っ て つ ぎ の 日 に は は し る。</p>	<p>お か あ さ ん と そ っ く り</p> 	<p>目 は あ い て い て 耳 は び ん と 立 っ て い る</p> 	<p>や ぎ ぐ ら い の 大 き さ</p>	<p>し ま う ま</p> 

## 2. 主な成果と課題

### 【成果】

#### ・ ICT 活用の基礎スキルの定着

1年生という発達段階において、当初は操作面に不安もあったが、ログインから写真の貼り付け、カードの移動といった基本的な操作をスムーズに習得することができた。これは、今後の他教科でのICT活用に向けた大きな一歩となった。

#### ・ 視覚的な支援による理解の深化

デジタル比較表に写真とテキストを並べて配置することで、動物ごとの違いが「目に見える形」となった。これにより、内容の読み取りが苦手な児童にとっても、情報の整理が容易になり、理解の助けとなった。

#### ・ 学習意欲の大幅な向上

「自分のタブレットを使って調べる」「表を完成させる」というプロセスそのものが、子どもたちの探究心を刺激した。従来のノートへの記述に比べ、集中力が持続し、意欲的に取り組む姿が多く見られた。

### 【課題】

#### ・ 活動内容の精査(盛り込みすぎの解消)

「比較表の作成」「全体の共有」など、ICTでできることが多い分、1時間の授業の中に活動を詰め込みすぎてしまった。その結果、じっくりと文章を読み深める時間や、友達と対話する時間が十分に確保できない場面があった。

低学年においては、ICTを使う目的をより絞り込み、「何のために使うのか」という重点化を図った時間配分が今後の課題である。

令和 7年度 小学校視聴覚部会 研究報告書

(1) 郡 市 名 犬上郡

(2) 研究テーマ 「個別最適な学びのための ICT の活用」

(3) 研究組織

世 話 係 多賀町立多賀小学校 校長 高橋乃生子  
理 事 多賀町立大滝小学校 教諭 仁井理沙  
研 究 員 甲良町立甲良西小学校 教諭 岡野慎也

(4) 年間の研究(事業)報告

5月2日(金) 教科主任会  
5月7日(水) ～各校での実践

(5) 取り組み<甲良町立甲良西小学校での取り組み>

本学級の児童は、第3学年の学習(特に「こまを楽しむ」)において、自分の好きな物やおすすめしたいところを紹介できるようになってきていた。しかし、相手に自分の考えを説明するための理由付けや自分の考えを明確にすることが、まだ十分にできていない。そこで、本単元では筆者の自分の考えを明確に書き、アップとルーズで捉えることのよさ、それぞれの場合に合わせたよさを説明する文章の書き方に注目し筆者の考えを引用しながら書けるように指導をする。

また、書くことに抵抗がある児童が多く、なかなか書き始めることができずに手が止まってしまう。そのために、様々な教科でタブレットを用いて調べ学習もおこなっているため、今回文章を書く時間では、下書きにタブレットを用いることで少しでも書いたり消しゴムで消したりする抵抗を減らすことができると考える。

本時の目標

自分の好きなことについて、文章構成や例の挙げ方を工夫して書こうとしている。

本時の展開

過 程	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の姿	◎学習支援 ☆評価点
導 入	1. 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。		
	自分の好きなことを相手にわかりやすく伝えよう!		

<p>展開</p>	<p>2. ①「アップとルーズで伝える」で学習したことを振り返る。</p> <p>②自分の好きなことを下書きに書き、清書する。</p> <p>③清書したものを相手に読んでもらう。</p> <p>④清書したものを読み合ってより工夫できるところを見つける。</p>	<p>○筆者が自分の考えを相手に伝えるためにどんな工夫をしていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アップとルーズの説明をしていた。</li> <li>・いいところを詳しく書いていた。</li> <li>・詳しく説明していた。</li> </ul> <p>●自分の考えを相手に伝えるためにはどんな工夫をしたらいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を書く。</li> <li>・自分の考えを2回書く。</li> <li>・はじめ・中・終わりに分けて書く。</li> </ul> <p>○相手の文章の書き方でくふうしていたところはどんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例が書いてあった。</li> <li>・自分の考えがはっきり書いてあった。</li> <li>・二つ例があってわかりやすかった。</li> </ul>	<p>◎アップとルーズの挿絵を利用して、具体例があることで筆者の考えがより伝わることを確認する。</p> <p>◎書き始める前に、どうすれば自分の考えが相手に伝えるための書き方の例を紹介する。</p> <p>◎下書きを書く際に、タブレット、紙どちらで書くか選べるようにする。</p> <p>☆自分の好きなことについて、文章構成や例の挙げ方を工夫して書こうとしている。【記述】(思・判・表)</p> <p>◎交流を通して相手の書き方を見て、より自分の文章を推敲し、よくしていく。</p>
<p>まとめ</p>	<p>3. 今日の振り返りをする。</p>	<p>○自分が今日文章を書く上で工夫したことを書こう。</p>	

#### (6) 成果と今後の課題

##### <成果>

今回の授業では、はじめ・中・終わりで具体的な例を用いて友だちに紹介する文章を書くといった内容であった。その中で、文章の下書きをタブレットの学習支援ソフト(tomolinks)を使うか、紙に書くかを子どもたちに選んでもらうようにした。8割ほどがタブレットを選

択し、残りの2割が紙を選択して下書きをしていた。普段、紙で下書きをする際、なかなか書けない子どもたちが、タブレットで書くことでスムーズに書くことができていた。文章を書く速さも早くなり、誤字や脱字も少なくなったりしていることが分かった。また、まだ学習していない漢字を使って書いている児童も多く見られた。清書の際には、しっかりとその字を書いている姿も見ることができた。

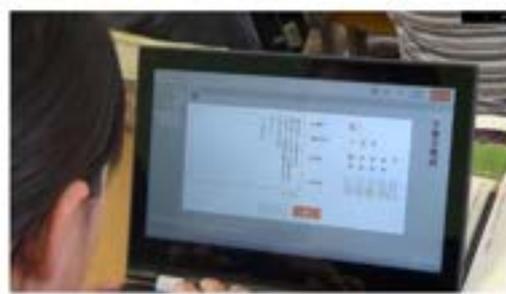
タブレットではなく紙を選んだ児童は、自分で考えて選んでいたのもあり、熱心に取り組むことができていた。

本授業の前に、文章の下書きをタブレットで書くメリット・デメリット、紙で書くメリット・デメリットの話をしてきたこともあり、自分に合わせた学習方法を取ることができている児童が多かったと感じた。

#### <今後の課題>

個別最適な学びのために、今回はタブレットを用いて下書きを行った。しかし、漢字の変換をしたものが文章の意味とあっていないことに気付かなかったり、文章の書き方(段落を変えるときに1マス空ける等)を気にせず書いたりしてしまっていた。そのために、しっかりと教師側で書いたものを確認する必要がある。ただ、学習支援ソフトのおかげで一挙に子どもたちの文章を見て添削していけるのでそこはかなり時間の短縮につながる。また、紙で書く方が早いにもかかわらず、タブレットを使いたいのために選択してしまっている子どももいた。そこで時間がかかることが分かり次回からは紙にする方がよいのではないかと声掛けをする必要がある。

しかし、全体として子どもたちがしっかりとタイピングを練習していたためスムーズにできていたが、学年によってばらつきもあるため、個別最適な学びのためにそれぞれの発達段階やタイピング能力に合わせた授業を行う必要がある。



## 令和7年度 湖南省教育研究会 視聴覚部会研究報告

- (1) 郡市名 湖南省
- (2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ
- (3) 研究組織  
小学校部会支部長 湖南省立菩提寺北小学校 教頭 山浦 良平  
中学校部会支部長 湖南省立日枝中学校 校長 西村 信二  
運営委員・研究推進委員 湖南省立水戸小学校 教諭 長井 悠輔
- (4) 年間の事業報告  
2月 研修会(オンライン)
- (5) 実践事例  
教科等: 自立活動  
学 年: 6年生  
題材名: 「どうして?」「どんな?」雑談をしよう

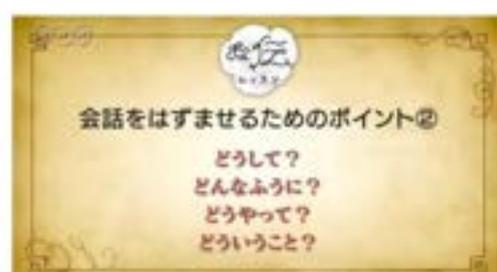
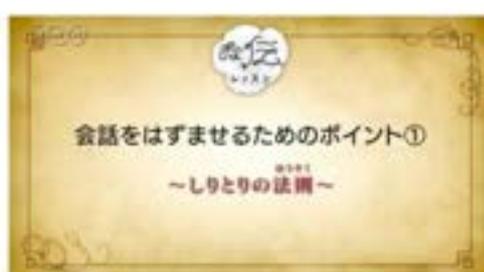
### 1 授業のねらい

本授業の対象児童は、中学校に向けて、発表を頑張ったり、ペアやグループワーク時の友だちとのコミュニケーションを上達させたいというめあてをもっていた。そこで、今回の学習を通して、友達と自然な会話を続けるための具体的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とした。

### 2 授業の概要

- ① 導入:前時までに記入した中学校に向けて頑張りたいことを振り返り、友だちとのコミュニケーションを上達させたいという課題を確認した。
- ② 本時のめあて確認  
「友だちといろいろな話ができるようになろう」を掲げ、児童が意識する点を確認した。
- ③ 映像教材での学習  
NHK for School『お伝と伝じろう』「会話のキャッチボール」を視聴し、会話の基本構造を視覚的に理解させた





④ 会話を続けるための2つの法則の理解

動画内に出てきた、「しりどりの法則」「どうしての法則」の2つのルールを紹介確認し、「話題を拾う」「疑問をもつ」といった技能を具体化した。

⑤ 教師との会話実践

教師と実際に「しりどりの法則」「どうしての法則」を活用して、雑談に挑戦した。

⑥ 振り返り

本時で学習した内容を再度確認した。

(6) 成果と今後の課題

本実践では、動画教材を活用したことにより、子どもの学習がより分かりやすく進む様子が見られた。動画は視覚的な情報を伴って内容を示すため、言葉だけでは想像しづらい場面も、子どもは具体的なイメージをもって学習に取り組むことができた。映像によって理解が深まる場面が多く、「なるほど、こういうことなのか」と学習内容と結びつけながら主体的に学ぶ姿が増えたことは大きな成果である。

また、今回使用した動画には、会話の流れを示すデモンストレーションが含まれていた。登場人物の話し方や表情、受け答えの様子など、文章では説明しにくい点を具体的に示すことができたため、子どもは会話のイメージをつかみやすかった。その結果、実際の会話でも相手の話を聞き、学習内容を整理しながら落ち着いて発言する姿が多く見られた。

今回の実践を通して、動画教材の有用性をあらためて実感する一方で、その十分な活用には課題が残されていることも感じた。NHKをはじめとして、授業に取り入れられる動画教材は非常に多く提供されている。しかし、どのような動画があるか全てを把握しきれておらず、教材の持つ可能性を十分に生かし切れていないと感じる。教員同士で日常的に気軽に情報交換できる環境をつくることで、「この動画はこういう場面で役立った」という実践が学校全体に広がり、動画教材の活用がより豊かになるようにしたい。

今後は、動画を単に視聴させるだけでなく、児童の理解や活動と結びつける授業設計を意識しながら、動画教材をより計画的に活用していきたい。そのためにも、教員間での情報共有を密にし、互いの知見を生かし合える体制を整えていくことが重要であると考えます。

令和7年度 甲賀市教育研究会 視聴覚部会 研究報告

- (1) 群市名 甲賀市
- (2) 研究テーマ 「教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ」  
～湖国からの発信～「学び」「心」そして「響き」へ
- (3) 研究組織
- |      |             |       |
|------|-------------|-------|
| 支部長  | 甲賀市立甲南第二小学校 | 西口 純  |
| 事務局  | 甲賀市立甲南中部小学校 | 清水 未来 |
| 運営委員 | 甲賀市立甲南中部小学校 | 清水 未来 |
| 研究委員 | 甲賀市立貴生川小学校  | 磯田 弘暉 |

(4) 年間研究報告

時 期	事 業 名	内 容 (講師職・氏名)
6月10日	県視聴覚部会 支部長会	・昨年度の事業報告、会計報告等 ・今年度の事業計画、組織確認等 ・今後の近畿大会の担当市町の輪番
6月下旬	市視聴覚教育部会 事務局会議	・本年度組織確立 ・本年度事業計画 ・本年度の研究について ・諸連絡
7月 7月22日	アナウンスビデオ教室への参加 県視聴覚部会 ・情報統計部会 支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会	・研修① はじめての Canva 講師 彦根市立旭森小学校 教諭 笹原弘樹 ・研修② 動画を活用した授業
11月12日	近畿放送教育研究会 兼近畿視聴 覚教育研究大会	
11月28日	市情報統計 ・視聴覚部会 合同研修会	「情報リテラシーを身につけよう」 講師 滋賀県総合企画統計課 普及係 森 幸一
2月	県支部長・運営委員・研究推進委員 合同研修会 滋賀県放送教育研究大会	

## (5) 取り組み（実践事例）

本校5年生の国語科の学習では2つの単元に置いて報告文や意見文を、ICT機器を活用して作成した。児童には一人一台タブレットがあり、その中にあるTeamsやオクリンクなどのアプリを活用した。ICT機器を用いることで、報告文や意見文に関係する写真や図、表などを自分で調べやすくなり、本文に取り込みやすくなる。さらには、文章と写真などの関係をもとに、配置を児童自身が工夫することができる。そうすることで読み手が理解しやすく、より説得力のある文章になる。以下、国語科の学習でICT機器を活用した事例を紹介する。

### ① 「みんなが使いやすいデザイン」

「みんなが使いやすいデザイン」の学習では、TeamsとWordを用いて報告文を作成した。身近にあるユニバーサルデザインを探したり調べたりして、それらをWordにまとめた。

児童は身の周りのユニバーサルデザインを撮影したり、インターネットで調べたりした写真を本文に取り込み、読み手が分かりやすいようにまとめることができた。また文章作成時に、誤字や脱字などが見つかった際には打ち換えるだけで簡単に修正ができ、文章の作成がよりスムーズに進み、児童も単元の終わりまで集中を切らさずに取り組みすることができたように思う。

児童は毎授業の終わりに、作成途中の文章をTeamsに提出した。なぜなら教師が文章を確認し、フィードバックをTeamsを通して児童に返すことができるからである。そうすることで、次の授業で児童はフィードバックを見て、文章を修正や工夫をし、より読み手に伝わり、説得力のある文章作成につながったと考える。



資料1 「みんなが使いやすいデザイン」の報告文

## ② 「自然環境を守るために」

「自然環境を守るために」の学習では、日本の自然環境が抱えている問題や、それに対する自分の考えをまとめて、意見文をオクリンクを用いて作成した。オクリンクでも写真などを本文に取り込んだり、フィードバックを一人一人に送ったりすることもできる。また文章をいくつかに分けて書くこともできる。

今回の学習では、文章が「始め」「中」「終わり」に分かれており、それぞれの文章を作成した。作成した「始め」「中」「終わり」の文章を一つのカードにまとめて作成した。そうすることで、書き直すために最初から消しゴムで文章を消して書き直す作業がなくなり、容易に修正や改善ができる。児童は途中で妥協することなく学習課題の解決に向けて取り組むことができる。さらに、児童それぞれのペースで文章を作成できたり、お互いに見合えたりすることもよい。また、オクリンクを使うことで、友だちの文章を読んで自分の文章に生かすこともできる。

二酸化炭素排出量を減らそう

年々地球温暖化は進んでいます。地球温暖化を防ぐためには二酸化炭素排出量を減らす事に繋がります。そのため私は二酸化炭素の原因である石油などを減らす必要があると考えています。

資料1は世界の二酸化炭素排出量の移り変わりを、1950年から2022年の間で約185億トンから35億トンに増加しています。

資料2は乗り物に使われるエネルギー資源の割合を表したグラフです。石油は全体の90パーセントをしめています。この二つの資料から私は、これからも二酸化炭素排出量は増えていき結果500億トンを超えていくと思います。そのためこれからは電気自動車や水素で動く自動車に乗る必要があると予想します。

以上の事からこれからは二酸化炭素排出量に繋がる行動は出来るだけ石油などを使わずに出来るものはそれに切り替え二酸化炭素排出量を減らしていきましょう。

参考  
環境省「エネルギー白書」(Energy Data-book-2022)  
Oryza「World Carbon Footprint」

資料2「自然環境を守るために」の意見文

### (6) 成果と今後の課題

#### 【成果】

- 文章と写真などとの関係を意識して読み手が理解しやすくより説得力のある文章を作成することができる。
- 文章作成中に、修正が必要となっても打ち換えるだけでよいので、児童の手間が省ける。
- 児童それぞれの進度で学習を進めることができる。

#### 【課題】

- 児童がそれぞれインターネットで資料を探すので、信憑性の低い資料を選ぶ場合がある。
- インターネットで調べたことを自分の文章にそのまま写してしまう児童がいる。

- (1) 都市名 守山市  
 (2) 研究テーマ 教育メディアが拓く、豊かな感性、そして確かな学びと生きる力へ  
 ～湖国からの発信～ 「学び」「心」そして「響き」へ

- (3) 研究組織  
 支 部 長 守山市立中洲小学校校長 菅井 千英  
 事 務 局 守山市立中洲小学校教諭 宮城 亮太  
 研究委員 守山市立速野小学校教諭 松岡 翔人  
 守山市立明富中学校教諭 安藤 葉生

各校視聴覚主任

校 名	主任名	校 名	主任名
守山小学校	早川 宗孝	守山中学校	関谷 篤史
物部小学校	藪内 悠史	守山南中学校	吉田 彬人
吉身小学校	穴見 有希	守山北中学校	辻村 拓海
立入が丘小学校	廣地 高典	明富中学校	安藤 葉生
小津小学校	田村 匡孝		
玉津小学校	大橋 透		
河西小学校	横山 周平		
速野小学校	松岡 翔人		
中洲小学校	宮城 亮太		

- (4) 年間の研究(事業)報告(令和7年度)

4月 市内視聴覚主任会

12月3日(火) 授業研究会(小学校)・小津小学校  
 道徳科 主題:誠実に生きる 教材名『自分を守る力って?』  
 ～一人1台端末を活用した意見交流:Canvaの活用～

2月下旬 授業研究会(中学校)・明富中学校 2年  
 理科で実施予定

- (5) 取り組み<実践事例>

守山市立玉津小学校4年生 道徳の実践から

- ・主題名 住みよい社会のためのきまり C-規則の尊重

・教材名 「「まっ、いいか」でいいのかな」

・本時の目標

少しぐらいという自分中心の考え方が、きまりが目指すみんなが住みよい社会の実現を妨げていることを理解し、集団や社会の1人として進んで規則を尊重しようとする態度を育てる。

## 5. 本時の展開

	学習活動	教師の支援口と評価※
導入	1、「まっ、いいか」って言葉を使ったことがありますか？  それぞれの「まっ、いいか」について考えよう。	<input type="checkbox"/> 場面をイメージしやすいように、何人かに使う場面について聞く。
展開前段	2、公園での「まっ、いいか」を考える。 〈たくさんの方がいる公園で、ボール遊びをしているがその公園には、ボール遊び禁止の文字が〉  3、図書室での「まっ、いいか」を考える。 〈図書室で本を読んでいる、友だちから話かけられる、無視をするのはいけないと思いきさい声で話す〉  4、横断歩道での「まっ、いいか」を考える。 〈細い道の横断歩道で赤信号待ちをしている時、車がくる気配もないし、大人の方は信号無視をしてわたるしどうしよう〉  5、優先座席での「まっ、いいか」を考える。 〈電車に乗った際に優先座席が空いている、電車にはあまり人がいません。座りますか〉	<input type="checkbox"/> 写真やスライドを見ながら場面をイメージしやすいように支援する。  <input type="checkbox"/> WinBird を使い児童が回答した、心情メーターを一斉にモニターに提示することによって、クラス全体の考えと共有し、考えを比べる。  ※自分の考えを心情メーターに表し、約束や社会のきまりへの考えを持ったり、生活とのつながりについてなど自分なりの考えを持っている。〈発言・心情メーター〉
展開後段	6、教師の説話を聞く 公共のゴミ箱がゴミで溢れてしまっている話を聞き、「まっ、いいか」が繰り返された結末であるという話を聞き考える。	<input type="checkbox"/> 公共のゴミ箱がゴミで溢れてしまっている写真を見ながら聞くことで想像しやすいようにする。

終 末	7. ふりかえりをする。	※本授業で考えたこと感じたことなど思いをワークシートに記入している。(ワークシート)
--------	--------------	--

#### (6) 資料・教具・準備

学習用パソコン(クロームブック)・・・児童各1台、教師用1台  
大型ディスプレイ、心情メーター、WinBird

#### (7) 考察

本授業は、日常生活の場面できまりを守っていない絵を見て、その姿が「まあ、いいか」と許せるのか許せないのかを考える授業内容だった。児童は、クロームブックで心情メーターを活用して表現し、教師がWinBirdを使って大型ディスプレイに全員分のメーターを表示した。それをもとにそれぞれの考えを交流した。WinBirdを活用して全員分心情メーターを並べて表示したことで、自分の考えと友だちの考えを比べることができ、友だちに尋ねたい意欲が高まり、児童同士で聞き合う姿が多く見られた。また、心情メーターを活用することで、発表をしにくい児童が自分の考えを表現することができ、児童同士での意見交流の中に自然と参加していく姿も見られた。今回のような自分の考えを友だちと比較するような学習には、心情メーターでの視覚化、WinBirdでの共有化はとても有効であると考えられる。



授業後の研究会でも、今回の学習での心情メーターとWinBirdの有効性について意見が出てきた。また、児童が意見を考える際の視点(きまりを守っていない当事者と、それを見ている周囲の傍観者)をはっきりさせた方がよいという意見が出た。今回の学習内容では、児童の表現のしやすさを優先して視点を設けていなかったが、視点を設けた方が立場がそろい、それぞれの意見を聞いたときに深まっていくのではないかと話し合った。



#### (8) 成果と今後の課題

守山市では、児童一人一台の学習用端末が配付されてから約4年が経過した。1年生から使い始めるため、児童が学習用端末の扱いに慣れているのは十分に分かった。しかし、その学習用端末を児童が活用する授業を、日頃から教師が学習に取り入れて授業を展開しているかという疑問が残る。ドリル学習や調べ学習への活用は多くなってきたが、それ以外を活用している教員は多くはないので、指導法をブラッシュアップしていく必要があると考えられる。子どもたちは学習用端末に随分慣れてきているが、それに対して教員側の指導に活用していく力も育成していくことが肝要ではないかと感じた。

# 令和7年度 小学校視聴覚部会 研究報告

(1) 郡市名 草津市

(2) 研究テーマ

「ICTを活用して、学ぶ意欲と豊かな表現力 生きる力を育成しよう」

(3) 研究組織

部会長 大林 知子 (玉川小)  
 副部会長 中西 浩之 (志津小) 明山 晋也 (山田小)  
 研究委員 佐々木 琢磨 (矢倉小)  
山中 晴登 (松原中)  
 文書等作成者 明山 晋也

部会員 (所属先)

所 属	氏 名	所 属	氏 名
志津小	古賀 安人	南笠東小	桂 春
	明瀬 葵衣	山田小	瀧 弘人
志津南小	倉田 里奈	笠縫小	戸田 裕基
草津小	田中 大介	笠縫東小	山下 冬馬
草津第二小	川満 和磨		西嶋 良
	大江 彬	常盤小	白波瀬 貴之
原田 晃成	岡田 惇		
波川小	中川 広紀		林 結衣
矢倉小	柳 千穂	高穂中	京浜 剛由
	榎井 亮		成末 悠真
	佐々木 琢磨	草津中	真淵 良芽
老上小	小松原 翔生	老上中	津留崎 駿
	中井 善久		大福 優介
老上西小	山田 洋人	玉川中	武田 純
玉川小	森 和昭	新堂中	杉山 侑起
		松原中	山中 晴登

- (4) 年間事業計画  
 4月11日(金) 第一回研修会  
 11月5日(水) 第二回研修会(松原中学校)  
 12月19日(金) 第三回研修会(南笠東小学校)

(5) 実践事例(南笠東小学校)

◎研究主題

『おもしろいと思える授業づくり～ICTを活用した問題発見・解決学習～』

◎研究仮説

ICTを活用した問題発見・解決学習を理論化し、全職員で共通実践することで、知的好奇心を高める授業が実現できるだろう。

◎研究方法

1. 授業構想に関する理論の構築

ア. 授業構想の理論

・児童が自ら問題を発見し、主体的に探究できる授業をめざし、次の4観点で授業を構成する。

- ① 付けたい力の焦点化
- ② 探究活動の構想
- ③ 問題発見場面の設定
- ④ 人との関わりを生む場の設定

イ. 研究授業による理論の深化

・単元構想シートを用いて4観点を整理し、研究授業→協議→再構築を繰り返して授業構想理論を深める。

2. 全教職員による日々の共通実践

ア. ヒントカードの活用

・授業改善を日常的に支援するために、単元構想シートとヒントカードを活用する。

単元構想シートは4つの観点を整理するが、日々の授業づくりにはやや負担が大きいため、より扱いやすいヒントカード(7項目)を作成する。

・ヒントカードをPCデスクトップに貼るなど、常に意識できる環境を整え、学校全体で問題発見・解決学習の視点を共有する。

イ. 日常的に授業を語り合う環境づくり

・問題発見・解決学習を、研究授業だけでなく日常の授業改善でも取り入れるため、週1回の打合せや定期的な話し合いの場を設ける。

・授業構想段階で、子どもの思考を多面的に捉える習慣を育てる。

・成功例・失敗例を共有し、継続的に改善する文化を学校全体で醸成する。

◎授業実践

○単元について

単元名	算数科：かけ算のきまり(かけ算マスターになろう)
学年・時数	2年/第3時(全4時)
単元の目標	<p>・乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解することができる。</p> <p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>◎同じ数ずつのまとまりに着目し、全体の数の求め方を工夫することができる。</p> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b></p> <p>・身の回りから乗法が用いられる場面を見つけたり、工夫して乗法を適用しようとしたりするなど、乗法を生活や学習に生かそうとする。</p> <p><b>【主体的に取り組む態度】</b></p>

単元の展開 (全4時)	学習問題		問題解決
	第1時	九九をわすれたとき、どうやって答えを見つけたいだろうか。	九九を忘れたときでも、かけられる数ずつみやしたり、かける数とかけられる数を入れかえたりして計算するとできる。
	第2時	九九の表を広げた部分の答えは、どのような方法で求められるだろうか。	九九よりも大きい数のかけ算の答えは、 1. 同じ数ずつたして求める 2. かけられる数とかける数を入れ替えて求める。 3. かけ算の2つの段の答えをたして求める。
	第3時		(本時)
	第4時		(習熟)

#### ○ICT活用のねらい

- ・児童が自分の考えを整理し、表現しやすくする。
- ・多様な考えを共有し、比較・検討できる環境をつくる。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを同時に支援する。

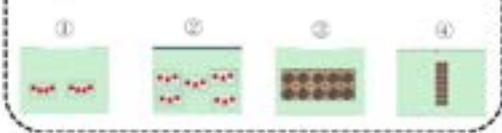
#### ○ICT活用例

- ・ロイロノートの活用      アレイ図に線を引く・囲む・式を書くなど、考えを視覚化して整理する。
- ・全体交流での共有      モニターに児童の提出カードを投影し、考えを比較・議論しやすくする。
- ・自力解決の支援      ヒントカードを提示し、困った児童も手がかりを得られるようにする。
- ・多様な方法の蓄積      複数のカードをまとめることで、クラス全体の考えの広がりを見える化する。

#### ○ICT活用の具体的効果

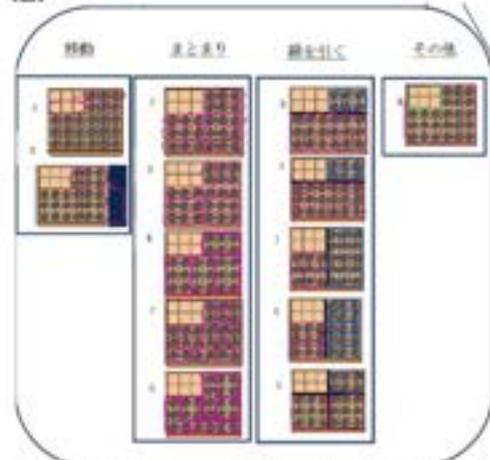
- ・図に直接書き込むことで、考えが整理され理解が深まる。
- ・他の児童の考えを見て、新しい視点を得られる。
- ・教師は児童の理解状況を即時に把握でき、指導の個別化が可能になる。

#### ○本時について

本時の目標	同じ数ずつのまとまりに着目し、全体の数の求め方を工夫することができる。 【思考・判断・表現】	
本時の展開	児童の活動	学習支援
	<p>1. 前時の振り返り</p> <p>前時までの学習を振り返る。以下の図では、どんなかけ算の式に表せるかどうか確認する。</p>  <p>2. 学習問題の確認</p> <p>下の図⑤を見て、どんなかけ算の式に表せるかどうか考える。</p>  <p>【学習問題】 図⑤のような形に並んだものは、どうやったらかけ算を使って全体の数を求められるだろうか？</p> <p>3. 自力解決</p>	<p>・「かけ算マスターになる」という単元目標を確認し、本時もかけ算で問題を解決する意欲をもたせる。</p> <p>・図①～④を提示して既習を振り返り、前時との並び方の違いに気付かせる。</p> <p>・図①～④で式の意味を確認し、「同じ数ずつのまとまり」を意識させる。</p> <p>・図を囲んだり式を書き込んだりできるようにし、自力解決で考えを整理しやすくする。</p>  <p>・図⑤を提示し、かけ算で全体の数を求められるかを問う。</p> <p>・図②・④との違いを共有し、1半型でもかけ算で求められるかという学習問題につなげる。</p> <p>・解決の見通しがありそうな児童に軽くヒントになる発言を促し、支援が必要な児童にも見通しをもたせ、多様な方法に気付けるようにする（※具体的な言い方は解決に直結しすぎないようにする）。</p> <p>・「移動させてもいい？」には、移動可能であることを伝える。</p> <p>・「たし算・ひき算も使っていない？」には、かけ算も使うことを確認した上で使用可と伝える。</p> <p>・解決方法が複数あることを確認し、多様な考えを出せるようにする。</p>

4. 全体交流 (1回目) 多様な方法の見見

【図】



5. 全体交流 (2回目) 考えを整理し、よりよい方法を比べる

【式】



6. まとめ

【問題解決】

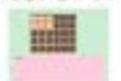
- 同じ数ずつのまとまりを見つけてかけ算を使うと、全体の数が求められる。
- ・図を横や縦に切って、かけ算とたし算を組み合わせたとできる。
- ・し字型を長方形と見て、かけ算とひき算を組み合わせたとできる。
- ・並び方を変えて、全体を長方形として見て、かけ算を使うとできる。

7. 連続問題に挑戦

8. 振り返り

【ICT】ロイロノートの活用

- ・自力解決後に全体交流しやすいように、ロイロノートを使用する。
- ・一目で考え方が分かるように、式と考え方をロイロノートの図に書くように伝える。
- ・下のカードを複数枚配ることで、多様な考えをまとめやすくする。



- ・自力で解けそうかを確認し、自力解決の時間をとる。
- ・書けた児童には「他の方法も考えてみよう」と声掛けする。
- ・複数の方法を考えている児童には、挑戦する楽しさを感じられるよう励ます。
- ・机間指導で児童の考え方を把握し、意図的に指名できるような環境を作る。
- ・困っている児童には、ヒントカードを見てよいことを伝える。
- ・自分の考えをもてなかった児童のために、全体交流で問題解決のきっかけをつくる。
- ・共有する考えはエバパターン程度に絞り、ほかにも方法があることに気付けるようにする。
- ・全体交流では、ロイロノートに掲載された児童の考えをモニターに映し、共有しやすくする。
- ・児童に分かりやすいよう、考え方に名前を付ける。
- ・同じ考えの児童同士で発表し、図や式を整理しながら板書する。
- ・交流では、「同じ数ずつのまとまり」を言葉できるような板書で示す。
- ・「算数はかせ」の見方・考え方で話し合うよう促す。
- ・まとまりを見つけるときは、見やすく囲む方法がよいことをおさえる。
- ・4つの方法を使うと、問題が解決できることをおさえる。但し、『算数はかせ』を言葉させる。

(6) 成果と課題

【成果】

- ・児童に問題発見をさせるための導入の工夫ができた。本時では、既習とのズレに気付ける導入を行うことで、児童の「？」を生み出すことができた。また、単元によって問題発見解決学習に向くものと、そうでないものがあることが分かった。
- ・児童の思考を予想し、その対応(○○の場合は、～～のように声を掛けるなど)を細かく考えておくことで、本時のねらいがぶれずに進めることができた。
- ・3つの単元(「かけ算」・「かけ算九九づくり」・「かけ算のきまり」)を通して、『かけ算マスターになる』という目標を立てて児童と進めることで、楽しみながら意欲的に学習を進めることができた。
- ・普段から「算数はかせ」の視点を意識させることで、本時でも「分かりやすいようにまとまりをつくる」ほうがいという発言が出てきた。
- ・タブレット端末を使用し、図に直接書き込むことで、直感的に考えを整理することができた。
- ・ロイロノートを活用することで、他者の考えにスムーズにアクセスすることができた。
- ・図や絵をモニターに提示することで板書を簡潔にまとめることができた。

**【課題】**

- ・2回目の全体交流では、児童の考えを発表するだけに留まり、活発な交流が行われなかった。
- ・考えが思いつかず、手が止まっている児童が多かった。1回目の全体交流で、もう少し丁寧に交流をすることで、2回目の自力解決の時間で手が止まる子が少なかったかもしれない。
- ・教師が、児童の考え方を把握することに手いっぱいになってしまい、手が止まっている児童への支援が打てなかったように感じる。

# 大津市教科等領域別研究会 視聴覚教育部会

## I 研究主題

「教育メディアが拓く、確かな学びと生きる力」

## II 研究経過

集会月日	研究事項	集会種別	会場
7.22	夏季公開研修講座	全体会	コラボしが21
9.30	今年度の計画及び活動概要について	全体会	瀬田南小学校
1.8	授業研究会事前検討会	全体会	瀬田南小学校
1.29	授業研究会・研究協議会研究協議会 今年度の総括	授業公開	瀬田南小学校

## III 研究内容とまとめ

9月30日の全体会で、昨年度までの活動を踏まえ、今年度の視聴覚教育部会の持ち方について協議した。市の情報教育部会とのすみ分けに執着することを控え、今までの県の視聴覚研究部会とのつながりも大切にしながら研究を進めていくこととした。

7月22日「夏季公開研修講座」では、県視聴覚部会・情報統計部会との共催として、まず、滋賀県 Convassador 笹原 弘樹氏により、「はじめてのCanva!」と題して、教師の仕事をよりよく変える方法を学ぶ機会となった。配布物や掲示物、さまざまな学級ツールが簡単につくることができたり、授業での子どものアウトプットにも使えたりすることがわかり、今後の活用に期待できることがわかった。また、滋賀県放送教育研究協議会 岡田 直也氏、岸本 翼氏による、NHK for Schoolの動画コンテンツを活用した授業づくりや動画コンテンツを活用した指導案づくりの実習ができた。

Canvaがデザイン作成ツールということもあり、関心が高く大津市からの参加者が多かった。また、参加者からは、本市でもタブレット端末にCanvaの導入ができないかとの意見が見られた。

1月29日には、研究主題にせまる「タブレット端末の効果的な活用」をねらいとした授業研究会を開催した。瀬田南小学校 疋田 淳 教諭による「2年 生活科『あしたへジャンプ』」の授業では、学習支援ソフト「MetaMoJi Classroom」を活用し、成長した自分の姿をプレゼン資料としてまとめる取組を実践した。低学年児童のソフト活用の技能は指導することで習熟することがわかり、ICT機器（タブレット端末）の技能スキルを系統立てて指導することの重要性を感じた。授業には大津市教育委員会事務局から指導主事が参観に来られ、講評していただいた。

## V 次年度への申し送り事項

参集して本部会の方向性を協議し、授業研究会を通して、研究主題と子どもの学びとのつながりを研究できたことは成果としてあげられる。しかしながら、部会員の少なさ、校種間（小中）における部会員の交流が十分に行えない状況を踏まえると、次年度には、部会員の交流が活発となるよう、連携を深める方策を考える必要がある。その課題解決の方策として、県の視聴覚教育部会との連携を含め、市の情報教育部会との共同部会として位置づけることが望ましい。